

Title	テキストを語る：『染方史郎の楽しく覚えず好きになる：感じる細菌学×抗菌薬』
Author	金子, 幸弘
Citation	大阪市立大学大学教育. 19巻1号, p.123-125.
Issue Date	2022-03-31
ISSN	1349-2152
Type	Article
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学大学教育研究センター
Description	テキスト:染方史郎(金子幸弘)(著)『染方史郎の楽しく覚えず好きになる：感じる細菌学×抗菌薬』じほう、2020年2月：科目名:細菌学：担当教員:金子幸弘(大阪市立大学大学院医学研究科)：特筆事項:大阪市立大学教育後援会顕彰：令和2年度「優秀テキスト賞」受賞
DOI	10.24544/ocu.20220318-003

Placed on: Osaka City University

—テキストを語る Textbook Review—

テキスト：染方史郎（金子幸弘）（著）『染方史郎の楽しく覚えず好きになる 感じる細菌学×抗菌薬』 じほう、2020年2月

科目名：細菌学

担当教員：金子幸弘（大阪市立大学大学院医学研究科）

特筆事項：大阪市立大学教育後援会顕彰 令和2年度
「優秀テキスト賞」受賞

はじめに

著者の染方史郎こと、医学研究科細菌学の金子幸弘です。拙著（図1）は、平成27年に同賞をいただいた前著『医学部生のために作った細菌学講義 第一版』（金子幸弘、仁木満美子、老沼研一、自費出版、2016年3月）の後継となるテキストです。元々



図1 感じる細菌学

は、オンラインで提供していた内容を自費出版した後、学会のセミナーを聴講された出版社の方からお話をいただき、正式な著書となりました。今回、賞をいただいてから、少し時間が経過しておりますが、「テキストを語る」のオファーを受け、喜んで執筆させていただきました。前回の受賞時に書いた、「まずは細菌学を好きになること、大枠を理解できればそれでよい、型を破るには型をきちんと理解すること」という考えは、今も変わっておりませんが、せっかくの2度目の機会ですので、別の観点から、ご紹介させていただきます。

本書の特徴は、なんといってもオリジナルキャラクター「バイキンズ®」

内容的には、前著の通り、医学部生が卒業時点までは知っておきたい事柄を中心にまとめています。前著と大きく異なる点は、「自費ではない」ことはもち

ろん、イラストをふんだんに使っていることです。しかも、ただのイラストではありません。本書に出てくる「バイキンズ®」と名づけた細菌のキャラクターは、自作の完全オリジナルです（図2）。®がついているこ



図2 バイキンズ®

とからお分かりの通り、商標も登録しています。スイヨー蹴り（水様下痢）が特徴のビブリ男コレラ（男は「オ」と呼んでください）、関取の格好をした百日咳（百日咳）など、類書を見ない、オヤジギャグてんこ盛りの一冊となっております。そうはいっても教科書的なので、「一般の人が読むような本ではないよな～」と思っていましたが、中学生で読んでいるという強者がいるという噂です。「読み物としても面白い」という評判ですので、一家に一冊いかがでしょうか（笑）。

染方史郎ってだれ？

さて、既にご紹介しましたが、気になることがありますか。そう、「染方史郎」ですね。細菌学の基本の一つとして、「グラム染色」という染色法がありますが、その「染め方」を「知ろう」というオヤジギャグです。これは私がクリエーターとして用いている名前で、LINEスタンプ（有料です）も作成しています（図3）。本書でも紹介していますが、「バイキンズ®カード」



図3 LINEスタンプ

という知的好奇心をくすぐるカードも絶賛発売中です。32種類カードが1セットとなっておりますので、是非、本書と一緒にご購入ください（笑）。ちなみに、全32種はホームページでもご覧いただけるという、大盤振る舞いをしております（<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/bacteriology/b-online/baikins-card.shtml>）。

楽しく

タイトルの最初にあるように「楽しく」というのは、私の教育のモットーの一つでもあります。書籍の序文にも書きましたが、覚えることの多い細菌学は学生時代の苦手な科目の一つでした。今はそんな細菌学を教えているというのですから奇妙な縁ですが、逆に苦い経験が生きたのではないかと感じています。ということは、今苦労している科目があったらラッキーなのかもしれません。細菌学は、大学で初めて学ぶという方が多いので、なんとなく難しいというイメージを持ちがちですが、教えているとそうでもないということがわかつてきました。実際、キャラクター化したところ、小学生でもいくつか名前をすぐ覚えてしまいました。細菌学に限りませんが、学ぶことを楽しめればしめたもの、最強の学習法になります。エンターテインメントですね。大学で教鞭をとるようになってからは、いかにして楽しく教えられるかを日頃からよく考えています。つい調子に乗りすぎて、時に学生がついて来られないという事故も起こりますが。

覚えず

細菌学に限らず、どんな学問でも「覚える」という作業はつきものです。ただ、あえて逆説的に「覚えず」という言葉をタイトルに入れました。もちろん、覚えることが0になるわけではありませんが、可能な限り覚えずに済むよう工夫をしました。オヤジギャグ然り、語呂合わせや言葉遊びを使って「感じる（体で覚える）」ということです。

例えば、先ほど出てきた「グラム染色」。グラム染色は、青と赤に染め分ける染色法です。青く染まると陽性、赤く染まると陰性です。自慢ではないですが、医学部の5年生頃まで、青と赤どちらが陰性かあやふやでした。今でこそ、当たり前になっていますが、そ

んな単純なことすらすぐに忘れてしまうという始末。
そこで、以下の呪文を学生たちに唱えさせています。

「赤は陰性、赤は陰性、……、」。するとどうでしょう、何か見えてきましたね。そう「……、赤ワイン（せい）」です、といった感じです（図4）。

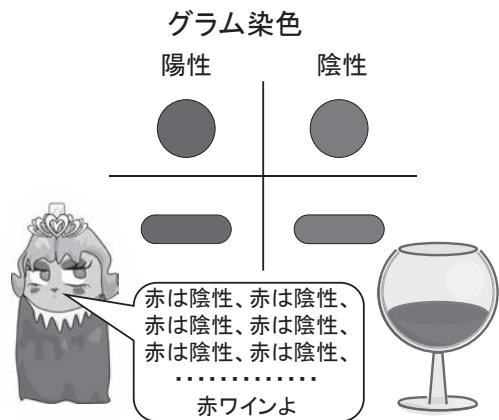


図4 グラム染色の呪文

講義では、アニメーションでゆっくり赤ワインが出てくるようにしています。もちろん、効果のほどはわかりませんが、微生物検査室での学生実習で「赤は陰性、赤は陰性、・・・」と学生がつぶやいている、という話を、とある検査技師さんから聞きました。多少は影響力があるようです。

好きになる

最後の「好きになる」は、論語の「之れを知る者は、之れを好む者に如かず。之れを好む者は、之れを楽しむ者に如かず」にもある通り、好きになって、楽しむことが重要です。論語では、「好む」が「楽しむ」よりも先にあるようですが、どちらが先かは「鶏」と「卵」の様な関係で大きな違いはないと思っています。また、本書の「好む」や「楽しむ」は、学問における本来の「好む」や「楽しむ」とは若干ずれているかもしれません。同じようなたとえとして、好きな教員が教える教科は得意になる傾向がある、と聞いたことがあります。ですから、好きになったり、得意になったりするきっかけは、結局何でもいいのです。ただ、本書をきっかけに、本当の意味での「好む」や「楽しむ」に発展してくれたらと期待しています。ちなみに、本書では、途中に6コマ漫画を取り入れるなど、ゆる~い雰囲気

を醸す一方で、脱線系の「ちょっと横道」や発展系のAdvanceといったコラムを設けるなど、知的好奇心をくすぐる仕掛けもしております。

おまけ with 自慢話

さて、ここからお愉しみのプレゼント企画です。とその前に、少しだけ自慢話と宣伝にお付き合いください。オリジナルキャラクターを使って行ってきたこれまでのアウトリーチ活動に対して、2019年11月に薬剤耐性対策普及啓発活動表彰文部科学大臣賞をいただきました。当時は、薬剤耐性対策普及啓発活動の議長を、日本科学未来館の館長である毛利衛先生が務めていらっしゃいました。そこで、毛利先生に拙著をお送りしたところ、「世界共通のカードづくりをぜひ実現しWHOの標準品となることを期待しています。」と直筆でお返事をいただきました。まだまだその域には達していませんが、とても勇気づけられるお言葉でした。また、本書をきっかけに、いくつかの執筆のオファーを受けました。2021年4月から、朝日新聞のデジタル版であるアピタルの連載などにも執筆中です。ノベルゲームも無料で公開中です。「バイキンズ®ワールド」で検索してください。その他、当教室のホームページにも楽しいコンテンツが満載です。是非、お立ち寄りください。

お待たせしました。お愉しみプレゼントのためのアンケートです。5月31日正午までに、下記のQRコードから、アンケートにご回答いただきますと、独断と偏見による抽選で「バイキンズ®カード」をプレゼントします。奮ってご応募ください。

最後に

最後までお読みいただきありがとうございました。この記事の執筆を承った時点で、本書の上梓から1年半が経過しました。お陰様で、通信販売のサイトでもまだランキングに残り、時に某サイトではカテゴリー内日別1位になることもあります。そして、今回、こうして再度、たくさんの方の目に触れる機会をいただき、本当に光栄です。本書を読み返すたびに、至らない点も見つかりますので、歴史と同様、進化する教科書にできればと思っています。末筆ながら、本書ならび

に本稿の執筆に際し多大なるご協力をいただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

アンケート

<https://redcap.med.osaka-cu.ac.jp/redcap/surveys/> で 4PP7EYJCJ とご入力いただくな、QRコードをご利用ください。



5